

## 普及活動情勢報告（令和2年5月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

### 三原村のお米のブランド化に向けて

・・・三原米ブランド化研究会総会・・・



5月13日に、三原村集落活動センターで水稲農家と関係機関が参加し（計15名）、三原米ブランド化研究会総会が行われました。

総会では、前年度活動報告や今年度活動計画について協議が行われました。その中で、三原ブランド米「水源のしずく」がSNS等を通じたネット販売で完売したことが報告されました。

農業改良普及課からは今年度実施する米食味向上実証試験について説明を行いました。

今後も、現地検討会や実証試験を通して、良食味米栽培技術を確立し、ブランド化に取り組んでいきます。

### サトイモの芽が出始めました

・・・黒潮町奥湊川営農組合・・・



奥湊川営農組合では、今年初めてサトイモの協業栽培に取り組んでおり、4月5日の定植作業後、5月上旬より、マルチからの芽出し作業を行っています。

組合員からは、「マルチの上から、サトイモの芽を探すのは難しい」「毎日確認作業に来ているが、サトイモの成長が早い」「組合員が集まって作業できるのは良い」等の声がありました。

農業改良普及課は、引き続きサトイモのわき芽処理や追肥、灌水作業についての指導や組織運営等を支援していきます。

### 土佐文旦の剪定結果を確認しました

・・・JA営農指導員果樹担当者会・・・



5月14日、JA高知県幡多地区の果樹担当営農指導員3名が参加し、果樹担当者会を開催しました。今年3月に土佐文旦で行った剪定実技研修で自分たちが剪定した樹の着花と新梢の発生状況を確認することで、剪定の善し悪しを振り返りました。

参加者からは、「切った樹の花や枝を確認できて勉強になった。夏季剪定についても学びたい」と剪定への関心を高めました。

農業改良普及課は、引き続き、JA営農指導員の果樹栽培における指導力向上を支援していきます。

## 摘蕾は根気の要る作業です！（ユズ研修生指導）

・・・三原村農業公社ユズ園・・・



5月14日、三原村農業公社の一番若いユズ園で、新規研修生に樹冠拡大のための摘蕾の要領を指導しました。摘蕾による木の反応や、木のどの部分は全摘が必要で、どの部分は多少の見落としが許されるのか、また、有葉花摘花時の指の使い方を説明しながらいっしょに摘蕾しました。研修生は作業の意味を理解して汗をかきながらも根気強く作業を続けていました。

農業改良普及課は継続して管理作業の目的や作業のコツを指導していきます。

## 低樹高化で労力削減

・・・文旦の授粉作業比較調査・・・



農業改良普及課では、農業者や雇用者等の高齢化が進むことを念頭に、高齢者でも安全で軽労な作業ができるよう、地に足を付けて作業可能な土佐文旦の低樹高化に取り組んでいます。

5月14日、土佐文旦の低樹高化による省力効果を数値化するため、土佐文旦の授粉作業時間調査を行いました。

その結果、低樹区では高樹区に比べ作業効率が1.5倍になることを明らかにしました。

今後、農業改良普及課では、収穫作業時間も調査し、土佐文旦の低樹高化に取り組んでいきます。

## オオバ産地の状況を聞き取りました

・・・オオバ部会生産者・・・



5月15日、四万十市のオオバ生産者（1名・営農アドバイザー）に、現在の産地の状況を聞き取りました。今年は、相対取引の割合が増加し、3月までは堅調に販売できていました。しかし、新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言後、業務需要が減少し、相対取引でも単価の引き下げが求められています。先が読めない状況ですが、持続化給付金の活用を考えている生産者もいるようです。

聞き取りした生産者は雇用を維持したい意向で、農業改良普及課からは雇用調整助成金について説明し、応募する場合には申請の支援を行う予定です。